

WEEKLY BULLETIN

会報 2016-2017

9月29日(木) 第11号
第2804回例会
第2510地区

●本日のロータリーソング 奉仕の理想

Rotary

ロータリークラブ
メーカーupp訪問
欧州編1(ベルリン・ローマ)

札幌東ロータリークラブ

本日のプログラム

年金復活プランと役員報酬の最適化
～在職老齢年金について～
社労士・行政書士はまぐち総合法務事務所
所長 濱口 貴行 氏

米谷 龍三 会員



先日、白石会長から海外のクラブのメーカーupp訪問について卓話の要請がありました。今回は、訪問国の歴史や観光なども交えて話を進めています。ドイツでは、ティアガルテン

RCとイタリアはローマ・テレベRCです。

①ドイツ連邦共和国

ドイツで戦後の代表的な負の遺産といえば東西ドイツを分断した約155kmの長い壁です。殆どが取り壊されておりますが、Wall Memorialとして記念館になっており、多くの観光で溢れておりました。1961年(昭和36年)、この壁は東独政府により突然建設が開始され、壁の崩壊まで28年の歳月を要しましたが、現在はその一部、約1.2kmは壁アートとして残され、これも観光名所の一つに数えられております。

昨年7月に訪れたドイツ・ティアガルテンは、RI・1940地区で、会員数は107名、創立は1967年です。会場正面には、国旗、EU旗、クラブ旗の3本が掲げられておりました。ちなみにクラブの名称はドイツ語で小さな公園を意味するそうです。当日は、偶然にもガバナー訪問と重なり、親日的なせいか良い席を設けて頂きました。女性会員が3分の1程出席されておりましたが、我東クラブの会員数は当時127名であり、女性会員は皆無である旨を告げると会場が少しざわめいておりました。又、その日ロータリアンでメーカーuppに来られたベルリン在住で田辺三菱製菓にお勤めのブラジル人と少し話をする事ができ、緊張が和らぐ事ができました。

②イタリア共和国

今年の6月9日妻と二人でローマとベネチアを訪れました。JAL便で朝7時50分新千歳を立ち、ヘルシンキ経由でその日の夜にローマに到着しましたが、スーツケースが1個未着でした。3日後には手元に届き、ホッといたしました。今回で荷物の分散さが、いかに重要であるかを痛感いたしました。ローマでは大小含めて40以上の美術館がありますが、私が最も印象に残ったのはボルゲーゼ美術館です。素晴らしい作品は歴史の古さも象徴しており、強い印象を与えるものでした。

訪問先のテレベRCはRI・2080地区の会員数43名、創立1994年の比較的若いクラブです。ちなみにテレベはローマを流れる有名な川が由来だそうです。このクラブでも皆さんから暖かい歓迎を受けることができました。

最後になりますが、例会時色々とお世話して頂いたFabrizioさんから、次のようなメールを受け取りました。「数年前我々が授与した奨学金で日本人の若い建築家がイタリアで一年間学びました。広い視野で意見を交換することはお互いを理解する上で最も重要です。建築家と同じあなた方の訪問は我々にとっても素晴らしい経験と、親近感を増すことが出来ました。どうぞイタリアの滞在を楽しんでください。又お会いできることを願っております。Fabrizio」

メンバー
メモ

会員は、年度の各半期間において、メーカーupp等を含むクラブ例会の出席率が50%以上、例会総数の30%以上の出席並びに連続4回例会欠席しないようにしなければなりません。